

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 愛知県刈谷市立富士松南小学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中高一貫教育  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )

住所 〒 448-0005  
愛知県刈谷市今川町山脇1番地

E-mail : fjnans@school.city.kariya.aichi.jp  
 Website : http://www.city.kariya.aichi.jp/school/fjnans/funa.html

児童生徒数：男子 369 名 女子 311 名 合計 680 名  
 児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

#### 4. 活動内容

##### 【愛知県刈谷市立富士松南小学校活動報告】

学 年	地域との交流を設定した活動予定	あいさつ運動
1 年	10月<主題授業生活科 10月30日> ・「四の市」を見学しよう ・地域の敬老クラブのお年寄りから伝承遊びを学ぶ ・地域の園児を招待する「伝承遊び」 11月18日 ・敬老クラブのお年寄りへの感謝の会 11月28日	○交通指導員・パトロール隊・スクールガードリーダー・PTA交通立ち当番（登校時における交通安全指導）の方へのあいさつ  ○児童会役員によるあいさつマスター運動とあいさつ啓発ポスター作成と地域の関係機関における掲示（年2回） ○南・北舎昇降口廊下をあいさつ通りと命名する。 ○生活委員会による校門でのあいさつ運動（学期に1回）
2 年	10月<主題授業音楽科 10月22日> ・「のはらうた」の振り付けを考え、校内音楽会や小中音楽会で発表しよう ・学区探検 11月・2月	
3 年	<主題授業社会科 6月16日> ・自分たちの住む地区はどんなところか考えよう ・地区にあるグリンピアの工夫を調べよう	
4 年	・ホテルの幼虫の放流（地域の建設会社の協力）4月 ・逢妻川の水質検査、香嵐溪の巴川との比較 5月・9月 ・昔の逢妻川について地域の方のお話を聞こう <主題授業総合的な学習 11月26日>	
5 年	・米作り（田植え・稲刈り）、もちつき（今川地区の皆様）6・10・1月 ・地域の園児と手作りおもちゃで交流 2月 ・地域の園児を招待する「もちつき会」2月 <主題授業家庭科 10月2日> ・「いざという時に役に立つ大人になろう」 ・栄養バランスのとれた非常食を考えよう：ポリ袋レシピ ・地域の防災について学んだり、防災訓練に参加したりしよう 今川地区防災訓練 11月23日	
6 年	・今川町学区に残る旧東海道を散策しよう ・泉田町学区に残る遺跡を巡ろう ・芋川うどんを作って食べてみよう ・学区の民話を調べ、地域や学校で「語り」の会を開こう <主題総合的な学習 11月27日> 児童会主催ニコワク祭りで語りの会を開催	
特 支	・地域に題材を求め、お話をつくり、劇を作ろう。 <主題授業特別支援教育 10月2日> ・キャッチの方のアドバイスをいただく。そして、地域の市民館に行き、敬老会の方の前で発表する。 10月11月 ・泉田市民館：いずみの会大交流会で劇発表	

活動のなかに地域の「ひと・もの・こと」を取り入れることで、子どもたちの地域に関する興味・関心を高めることができた。また、身近な素材を活用することで、子どもたちの活動意欲も長く継続することにつながった。さらに巴

川の観察や米作りなど体験を取り入れることで、地域に対する愛着がわき、地域を流れる逢妻川、地域の米作りへの理解も深めることができた。同時に、活動の成果を地域の企業や市民館などで掲示してもらうことで、ユネスコスクールの活動を発信するよう努めてきた。その中で、第4学年の実践を詳しく紹介する。

### 【第4学年実践】

総合的な学習の時間 単元「逢妻川エコロジー」

#### 1 単元の目標

- ・逢妻川や足助川（豊田市足助町）の水質調査や、ゲストティーチャーの話を聞く活動を通して、身近な環境に関心をもつことができる。

＜意欲・関心・態度＞

- ・これからの逢妻川について、調査体験やゲストティーチャーから得た情報を適切に生かし、自分なりの考えをもつことができる。

＜問題を追究する力＞

- ・逢妻川について調べたことや考えたことを、他学年の児童や地域の人に適切に発信することができる。

＜情報発信能力＞

#### 2 単元について

##### （1）学ぶ喜びを味わわせるために

- ①「ホタルの放流会」で実際にホタルの幼虫を目の当たりにしたり、逢妻川と足助川での水質調査や生き物探し、実際に捕まえる活動をしたりして、身近な自然にたっぷり触れることで、自然の素晴らしさを繰り返し体感させる。
- ②ゲストティーチャーから、専門的な知識や生活感のある話を聞くことで、逢妻川を身近に感じさせ、よりよいものとして残していきたいという気持ちを高める。
- ③共通体験を基に、話し合いの視点（「水辺のすこやかさ指標」環境省による）をはっきりとさせることで、自分の考えを明確にし、発言に自信をもてるようにする
- ④新聞やパンフレット作りを通して、選択したり関連付けたりした情報から逢妻川についての考えを自由に表現することで、他の子や地域に発信する楽しさを味わわせる。

##### （2）地域教材をどのように取り上げたか

学区を流れる逢妻川は、昔は人々の生活に根付いていたものの、今では整備された汚い川というイメージが強い。そこで、「逢妻川水質調査」の体験活動をきっかけに、汚いように見えても絶滅危惧種の水生生物がいること、子どもよりも大人のゴミが多いなどの意外性から、逢妻川の環境を守っていきたいという気持ちを育てていく。また、地域の建設会社の方の力を借りて専門的な水質調査を行ったり、地域のお年寄りから昔の逢妻川の話を聞いたりすることで、地域の人とつながりをもち、逢妻川をより身近に感じさせていく。

##### （3）教科領域を横断的に取り入れた単元構想の工夫

本単元は、総合的な学習の時間を中心に、社会科「住みよいくらしをつくる」（12時間）、国語科「取材したことをもとに学級新聞を作ろう」（12時間）を取り入れ、スパンの長い実践を支えたい。社会科では環境について、国語科では学級新聞を作ることで、学習内容を地域へ発信することをねらいとしている。

#### 4 単元構想図〈全 28 時間完了〉（略）

#### 5 授業の実践

##### （1）逢妻川に触れ、逢妻川に関心をもち始めたA〈1～6／28〉

4月下旬に、初めてホタルの幼虫に触れたAは、事前に調べてきたこともあり、説明を意欲的に聞き、幼虫の姿をじっと見つめて観察した。5月下旬、逢妻川へ調査に出かけた。地域の建設会社の方に安全に配慮していただきながら、慎重に川の中へ入った。始めは慣れない足取りだったAも、「あっちに行ってみようよ」とグループの子に声をかけ、意欲的に生き物探しをした。逢妻川に初めて入ったことで、今まで気が付かなかった逢妻川の生き物や、子どもよりも大人のゴミの多さに目を向けることができた。

##### （2）足助川の取り組みを知り、逢妻川と比較して考えを深めるA〈13～18／28〉

10月上旬、逢妻川とは対照的な自然の残る足助川へ調査に出かけた。観光協会会長さんから、30年にわたる「足助の川を守る会」の具体的活動内容を聞き、地域の人たちの協力のもと、足助川の水質や環境が改善され維持されていることを知った。Aは、逢妻川の現状も地域の協力を変えていくことができるのではないかという気持ちを高め、川を取りまく周りの環境の大切さにも目を向け始めた。午後からの足助川の水質調査では、逢妻川の透視度は12cmだったのが、足助川は50cm以上もあることに、子どもたちにはとても驚いた。

##### （3）昔の逢妻川の話聞き、より逢妻川を身近に感じるA〈21・22／28〉

11月上旬、地域の方をゲストティーチャーとして3人お招きした。「昔は川の魚をすくってそのまま飲めるくらいきれいな水だった」「土を掘るとエビが出てきたり、川の中に貝がいたりした」という話に、どの子どもとても驚いた。資料2のように、Aは昔の逢妻川の姿を取り戻し、逢妻川の水質をよくしていきたいと意識するようになった。

##### （4）これからの逢妻川について、自分の考えを意欲的に発言するA〈23・24／28〉

相互指名で話し合いを進めた。前半は、逢妻川をきれいにするための意見が中心だった。地域の人に呼びかけたりゴミ箱や看板の設置の仕方を工夫したりするなど、ゴミを減らすための具体的な考えがいくつか出された。話し合いの視点を変えるよう

促すと、すかさずAが挙手し、周りの環境へ目を向けた発言をした。資料2のように、Aの発言から、逢妻川を身近に感じる実感のこもった意見が続いた。前時までの「逢妻川と足助川」「今と昔の逢妻川」の比較の話し合いと同様に、「水辺のすこやかさ指標」の4つの観点から理由を考えてきたことで、体験したことや聞いたことを根拠にして自分の考えを発言し、話し合いの内容を深めることができた。また、話し合いの流れを意識したAの発言は、他の子の気付きを広げるきっかけを作ることができたと言える。

#### 【資料2】「昔の逢妻川の話聞いて」

昔の逢妻川はきれいだったけど、せまかった。約40～50年くらい前に、工場ができて汚くなった。足助川とちがって石段はなくて、井戸水で野菜や洗濯物を洗っていた。周りは田んぼで、今よりも6分の1くらいの家しかなかった。魚は手でとることができた。

今は便利だけど、便利が増えて逢妻川が汚くなっている。これからは、バーベキューをやるなら、決まりを守るとか、ゴミを絶対に置かない、落とさないようにしたいと思った。そして、昔の姿を取りもどして、きれいにしたいと思う。あと、水を大切にして、どろ川にしないようにして気持ちのいい逢妻川にしたい。

(5) 逢妻川のことをみんなに知らせようと意欲的に活動するA<25~28/28>パンフレット作りに向けて、伝えたい事柄を意識しながらレイアウトをグループごとに話し合った。編集長になったAは、資料3のようにマスコットキャラクターを考え、見て分かりやすい記事の配置を提案することができた。自分たちだけが知っている情報を自由に表現できるパンフレット作りを通して、地域の人に広めていきたいという意欲をもち、よりよいものを作ろうという気持ちを高めることができた。



【資料2】 授業記録「これからの逢妻川について考えよう」

T1: ゴミのことについてたくさん意見が出たね。他にまだ言えてない作戦があるよね。

A: 「地域とのつながり」で、にぎやかな川にしたいです。川を使う祭りを多くして、足助川とか巴川みたいにLEDを流すといいと思いました。

C1: Aさんに付け足しで、足助川みたいに逢妻川をきれいにしてからLEDを川に流せば、人がいっぱい来るし、逢妻川が評判になるからかもしれないと思います。

T2: これだね。(香嵐渓ライトアップの写真を提示)

C2: Aさんに少し似ていて、バーベキューの人しかあまり近くに来ないから、きれいにして、釣りの人が来てにぎやかな川にしたいです。人が増えると、見ていてくれる人が増えるので、川の事故が少し減ると思います。

C3: 私も地域とのつながりで、「わんさか祭り」をもっと有名にしていきたいです。なぜかという、毎年行っているけど、あまり遠くの人には来ないのでもっとポスターとかをいろいろな建物に貼って、知らせていきたいです。

C4: 私はAさんとC1さんとC2さんの意見を聞いて思いついたんだけど、巴川はもみじがきれいだったので人がたくさん来るので、逢妻川には木が少ないから木を増やしてから流してもきれいになると思います。

## 6 考察

(1) 地域教材を段階的に取り入れる単元の工夫をしたことで、活動意欲を高め、地域をよりよくしたいという思いをもつことができた。

自然の素晴らしさを体感したり、専門的な知識や生活感のある話を聞いたりすることで、逢妻川を大切にしたいという気持ちを高めることができた。また、地域の人々との触れ合いやつながりの大切さ、感謝する気持ちを育むことができた。

(2) 互いに意見を交流する場を位置付けたことで、表現したいという意欲を高め、仲間との関わり合いを実感させることができた。

共通体験後、「話し合う場」を位置付け、調査してきた様々な情報を選択したり関連付けたりすることで、取り組みの成果を確かな自分の考えとすることができた。また、新聞やパンフレット作りを通して、仲間と関わり合って表現する喜びを感じることもできた。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（